

1.実施校の自己評価

令和6年度 東日本国際大学附属昌平高等学校通信制課程 学校自己評価表

1.学校自己評価実施者 東日本国際大学附属昌平高等学校通信制課程 専任・常勤教職員

2.評価対象期間 令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

3.評価基準 「軽重」はS A の順でSは必須項目。Aは重点項目。「○=実施済み」「△=取り組み不十分」「×=ほぼ未実施」

※教職員全員の評価結果を管理職が集計し、「○」「△」「×」の中で最も多かった評価を記載している（右端に各評価の人数割合を記入）

評価基準	軽重	評価	集計
スクール・ミッションを再定義し公表している	S	○	○90% △100% ×0%
令和6年度に活動実績(生徒の在籍)がある。	S	○	○100% △0% ×0%
添削指導・面接指導・試験・メディアを領した指導等は、連携施設も含め、各教科・科目の有効な教員免許状所持する実施校の教員が担当している。	S	○	○90% △100% ×0%
生徒一人当たりのスペースが十分確保され、遮光・通風・換気等、学習に集中できる環境が配慮されている。	S	○	○80% △20% ×0%
緊急時における防災・防犯体制は十分考えられ、生徒が安心した学校生活が送れるよう適切に運営されている。	S	○	○80% △20% ×0%
少なくとも1年度間に1回実施校の自己評価を実施し、結果を公表している。	S	○	○100% △0% ×0%
災害を想定した防災教育や交通安全指導を行っている。	S	○	○70% △30% ×0%
教室やトイレ、共用部分等は定期的に清掃され、清潔が保たれている。	S	○	○100% △0% ×0%
学習の補助となる資料や教科書に関連した図書等が十分に揃っている。	A	○	○80% △20% ×0%
学習等支援施設が高等学校の施設であると誤解させない等、適切な看板表記や生徒募集・入学相談に際しては、明確な説明をしている。	S	○	○100% △0% ×0%
単位修得や卒業要件等、通信制課程の仕組みを生徒は理解できている。	S	○	○90% △10% ×0%
生徒一人ひとりの学習進捗状況を把握して、年間指導計画に基づいた丁寧な学習指導ができている。	S	○	○90% △10% ×0%
生徒個々の学習能力に応じて、添削課題の理解度を高め、且つ、提出期日に遅延がないよう計画的な指導ができている。	S	○	○90% △10% ×0%
面接指導の出席(視聴票の提出)計画を的確に指導して、当日は引率をする等して、生徒のサポートに努めている。	S	○	○90% △10% ×0%
事前対策指導や添削指導で間違えた問題の復習等を通して、理解度の向上に努めている。	A	○	○90% △10% ×0%
特別活動の時間や校外学習、体験学習等を通して、生徒が多様な経験や体験を得られる機会を提供している。	A	○	○80% △10% ×10%
本校の「いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止と早期発見に取り組んでいる。	S	○	○100% △0% ×0%
学校の活動を通して、規則正しい生活習慣や社会の一員としての自主的・自律的な行動について適切な指導を行っている。	S	○	○90% △10% ×0%
個々の生徒の志望や適性に寄り添った、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしている。	S	△	○100% △0% ×0%
生徒の個人情報の保護に十分配慮している。	S	○	○100% △0% ×0%
職員の資質の向上のために、定期的な内部研修を実施している。	S	○	○60% △30% ×10%
学校からの配付物等や生徒の学校生活の状況等や、保護者と情報共有されていて、相談や要望に対しても適切に対応している。	S	○	○80% △20% ×0%
学校との円滑な協力体制が確立され、生徒に適切な時期に書類等を配付したり、各種証明書の申請や提出物等の期限を遵守できている。	S	○	○100% △0% ×0%
就学支援金関する事務処理は適正に行われている。	S	○	○100% △0% ×1%
就学支援金関する生徒・保護者への説明は、適正に行われている。	S	○	○100% △0% ×2%
教育課程に関する法令に即して教育課程を編成している。	S	○	○100% △0% ×0%
学習指導要領に基づく標準回数を確保している。	S	○	○100% △0% ×0%
添削課題の解答形式は、記述式や多肢選択式などバランスの取れた構成となっている。	A	○	○80% △20% ×0%
学習指導要領に基づく単位時間数を確保している。	S	○	○100% △0% ×0%
時間は、1単位時間を50分として計算した時間帯になっている。	S	○	○90% △10% ×0%
年間指導計画に基づいて実施している	S	○	○100% △0% ×0%
多様なメディアを用いた指導は、計画的、継続的に実施するとともに適切な水準になっている。	S	○	○90% △10% ×0%
試験は、添削指導、面接指導の終了後に実施している。	S	○	○100% △0% ×0%
科目の特性を考慮する場合以外、自由な成果物のみで試験に代替することはない。	S	○	○100% △0% ×0%